

# 自衛隊OB

## 1 票点描 参院選2013

▶④

今月中旬、熊本市で開かれた陸上自衛隊のOB会。長崎県佐世保市の出身だ吉弘嘉幸(69)は、いずれも自衛隊員となった仲間たちとテーブルを囲んだ。「良い再就職先が見つかるように、みんなも努力した。」自衛隊への理解があるように、みんなも努力した。

長崎県佐世保市の出身だが、関東、北海道などの駐屯地を転動後、西部方面総監部配下の福岡県久留米市の駐屯地を最後に退職した。「自衛隊への理解があるように、みんなも努力した。」

旧海軍兵学校の元教官だった高校教師に勧められて防衛大学校に進学し、卒業の、憲法に明記されていない自衛隊。「自分たちの存

# 右傾化というけれど

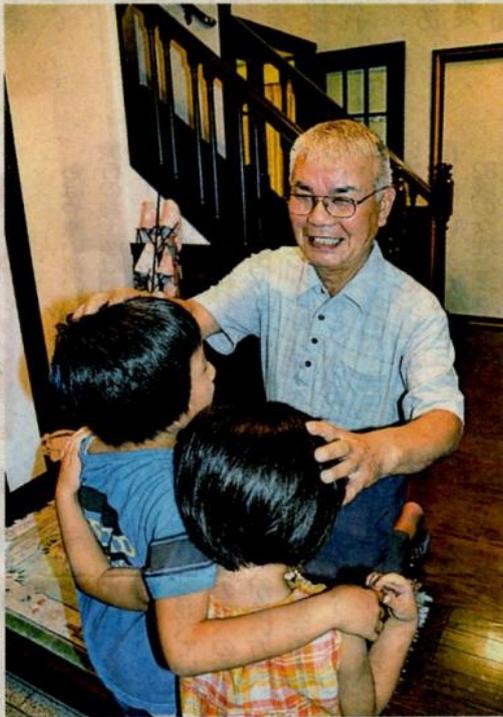
「右傾化」との批判も目立つ。自衛隊の前身の警察予備隊発足から63年。敗戦後、世論が左に寄った。今は真ん中に戻る過程だ。参院選を前に、仲間たちと「右傾化批判」に首をかき上げる。

も乗り越えた。幹部に昇進後の1990年代以降、因連平和維持活動(PKO)など自衛隊の海外派遣が本格化した。しかし危険な地域に派遣されるのに武器の使用は制限され、「部下の命は守られるのか」との疑問が強くわいた。国に自衛権はあるものか」との疑問が強くわいた。

東日本大震災で黙々と救助活動する隊員たちの姿に、多くの人が感銘した。こうした地道な活動で自衛隊の存在が認められるようになった。

学生運動の全盛期。自衛隊への風当たりは強く、制服で街に出ると「税金泥棒」とのしられることが何度もあった。「やるべきこと」を一つ一つこなしていくのだと。4年前、熊本市の健康駐屯地の近くに娘夫婦との2

2世帯住宅の玄関で愛しい孫を迎え入れる吉弘さん。「この子たちの時代にも平和が続くことを願う」



世帯住宅を建てた。共働き夫婦の代わり、7歳と5歳の幼い孫2人の面倒を見るのが日課となった。自衛隊員は「みんなが平和で幸せに暮らせるように頑張っている」と、いつか孫たちに誇りを持って言おうと思う。

参院選の結果次第で、悲願だった憲法への「自衛隊」を離れて穏やかな日々を送る中で、自衛隊の立場をよ

「明記」に向け、道筋が見えり冷静に考えられるようになったのかもしれない。参院選は、日本の安全保障の大きな転換点になるか。「国防は、いざという時に人々の暮らしに多大な影響をもたらす。だからこの言葉に反発する人は、まだまだ多い」。軍事の最前線と時間をかけて議論するべ

敬称略 (向井大慶)